

- 1) 妻の就業と育児支援—個人内変動と個人間変動の検討— … 余田翔平 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 2) ジェンダーの視点からの育児休業制度の再考
—フランス・日本の女性育児休業取得者の比較を通して— …… 藤野敦子 (京都産業大学)
- 3) 日本における女性の就業状態別出生率 …………… 松倉力也 (日本大学)
森木美恵 (国際基督教大学)
- E2 アジアⅢ 座長：可部繁三郎 (日本経済研究センター)
- 4) ラオス南部水田農村の若者出稼ぎと村との関係 …………… 丹羽孝仁・中川聡史 (埼玉大学)
- 5) ラオス南部水田農村の人口動態率と国際人口移動 …………… 高橋眞一 (新潟産業大学)
- 6) 家系図復元調査によるラオス南部水田農村の結婚と出生力 …………… 西本 太 (長崎大学)

●自由論題報告 F

- F1 人口統計 座長：岡田 豊 (みずほ総合研究所)
- 1) 平成27年国勢調査の実施—ICTを活用した世界最大規模のオンライン調査—
…………… 保高博之 (総務省統計局)
- 2) シェアハウスに住む世帯の最近の状況 …………… 西 文彦 (総務省統計研修所)
- 3) 世帯構造と所得格差の変化と人口の推移—都道府県別データに基づく分析—
…………… 金子能宏 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 4) 市区町村別年齢別登録人口データの最近の公表状況 …………… 山田 茂 (国士舘大学)
- F2 地域人口 座長：阿部 隆 (東北大学(院))
- 5) 地域別人口性比の特徴 …………… 坂井博通 (埼玉県立大学)
- 6) 孤立の高齢世帯の地域分布—2008年から2013年の変化— …………… 丸山洋平 (福井県立大学)
- 7) 東京圏郊外第3世代の居住地分布と世代交代 …………… 藤井多希子 (政策人口研究所)
- 8) 英語圏諸国との比較からみた社人研の地域別将来推計人口の誤差
…………… 山内昌和・小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

●自由論題報告 G

- G1 結婚Ⅰ 座長：武井 勲 (日本大学)
- 1) 日本の農家男子の結婚難—2002年就業構造基本調査による分析—
…………… 西村教子 (鳥取環境大学)
仙田徹志 (京都大学)
- 2) 女子大学生の男女交際に影響を与える要因分析 …………… 前田正子 (甲南大学)
- G2 結婚Ⅱ 座長：松浦 司 (中央大学)
- 3) 日本の夫婦における結婚の幸福と子供 …………… 吉田千鶴 (関東学院大学)
- 4) 未婚者の結婚願望に関する分析 …………… 西村 智 (関西学院大学)
- 5) 配偶者選択仲介行動とその変化に関する分析 …………… 永瀬伸子 (お茶の水女子大学)
(鈴木 透 記)

中国民政部政策研究中心との研究会開催

2015年6月12日(金)に、中国民政部政策研究中心より王傑秀主任(所長)が団長の訪問団が国立社会保障・人口問題研究所を訪れ日中の人口高齢化と社会保障制度についての研究会を行った。社人

研からは「社人研の紹介・日本の人口概要」(筆者),「中国民政部・政策研究中心への訪問報告」(小島克久国際関係部第2室長),「日本と東アジアにおける高齢者の居住状態」(鈴木透人口構造研究部部長),「日本の社会保障制度とガバナンス」(金子能宏政策研究連携担当参与),中国民政部からは「民政部・政策研究中心の紹介」(王傑秀主任),「中国における高齢者福祉政策」(于建明科研処研究員),「中国の社会救助政策:発展と展望」(談志林第四研究室主任)といった報告の後,討論が行われた。

中国民政部は,内務部を母体として1978年に改組・設置された中央省庁で,災害救助,NPO登記,行政区画管理,社会福祉などを担当し,中国老齡問題全国委員会が民政部に属しているなど人口高齡化についての担当省庁でもある。政策研究中心はその民生部直屬の研究所以り,7つの部署のうち5つが研究部署で,50名程度の職員を擁しており,社人研と同様の組織といえる。中国の人口高齡化を鑑み,日本の高齢者福祉・介護,生活保護,NPOとの協働,ガバナンスなど,多岐にわたる分野について情報交換を行った。(林 玲子 記)

第8回人口地理学国際会議

2015年6月30日から7月3日にかけて,オーストラリア・ブリスベン郊外のクィーンズランド大学において第8回人口地理学国際会議(International Conference on Population Geographies,以下ICPGと略)が開催された。ICPGは,その母体となる常設の学会組織をもたないユニークな運営体制となっているが,人口地理およびその関連分野の研究者が定期的集って最新の研究成果を発表する国際的な学術集會として,2002年の第1回大会(英セント・アンドリューズ)以降ほぼ2年ごとに開催されている。2007年に香港で開催された第4回大会以来8年ぶりのアジア・オセアニア地域での開催となった今回のICPGでは,「人口の空間的側面」(The Spatial Dimensions of Population)という統一的なカンファレンス・テーマのもと,4日間で48の口頭発表セッションおよびポスターセッションが設けられた(報告論文総数は約190本)。各国からの参加者による研究発表の内容は,地域人口や人口移動に関する実証分析から新たな推計手法の提案および検証といった方法論的な研究まで多岐に渡った。

筆者にとってとくに興味深かったのは,“Data Visualisation”と題されたセッションが複数設けられていたことである。ここでは小地域人口データの分析結果や人口の空間的な移動パターンなどの表現方法についての様々な試みが発表されており,分析手法の精緻化に加えて,分析結果の視覚化—いわゆる「見える化」—が,人口研究分野においても世界の研究者の共通の関心事となりつつあることを実感した。また,地域人口の将来推計手法に関するテキストブックで知られるDavid Swanson(米カリフォルニア大学リバーサイド校)による基調講演や,今大会のホストでもあるクィーンズランド大学人口研究所のMartin Bellらの研究グループによる国内人口移動の国際比較研究プロジェクトの成果に関する特別セッションを聴講できたのも貴重な機会であった。

当研究所からは,林玲子(国際関係部長),小池司朗(人口構造研究部室長),山内昌和(人口構造研究部室長),鎌田健司(人口構造研究部主任研究官),筆者の5名が参加し,それぞれ以下の研究発表を行った。

【口頭発表セッション】

- HAYASHI, Reiko "Aging in Place? Geographical Mobility of the Elderly in Japan."
- NAKAGAWA, Masataka and KAMATA, Kenji "Spatial Variations in the Association